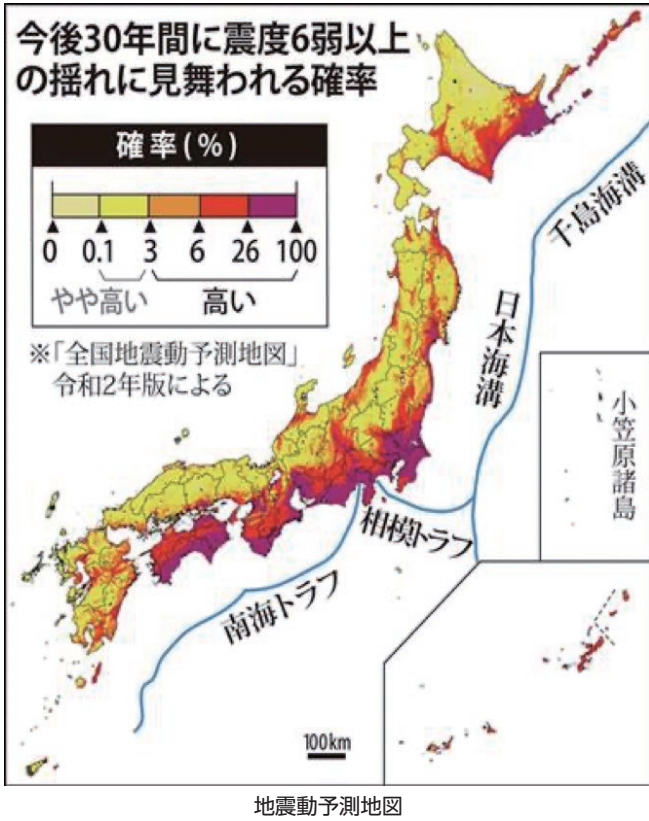




**ひまつぶし**  
 ますも誠二 月刊広報誌  
 Vol.69



東日本大震災から10年。被災地の復興も進み、それと何より大切な被災者の心の復興も進んできました。しかし、新たな災害がすぐ側にきている事を私達は忘れてはいけません。先月、政府の地震調査委員会は、近い将来、震度6弱以上の激しい揺れに襲われる確率を示した地図を公表しました。県庁所在地など都市部の多くは、かなりの揺れが強くなる立地であるとして、声を大に

して備えをするよう呼びかけています。左記の地図は、国内外の地震専門家が集まる政府の地震調査委員会が公表した「地震動予測地図」で、「今後30年以内に震度6弱以上の揺れに襲われる確率」を色別に示したものです。最も高い確率を示すのは赤紫色で、本市市原市も含まれます。この地域では近い将来26%以上、震度6弱以上の揺



れに見舞われることを示しています。みなさん！もはや確率論ではありません。明日発生する事を想定すべき時です。今後、南海トラフの巨大地震や千島海溝沿いの巨大地震の発生が懸念されている東海から四国にかけてや、北海道の南東部、また、房総沖の巨大地震や、首都直下地震の発生が懸念されている首都圏などで、特に確率が高い赤紫色の地域が多くなっています。

地震調査委員会の委員長を務めてきた東京大学の平田直名誉教授は、「多くの都市部は揺れが強くなりやすい平野部にあり、家具の固定をするなど改めて備えを確認してほしい」と呼びかけています。都道府県ごとの揺れに見舞われる確率や地盤の揺れやすさを示した詳しい地図は、防災科学技術研究所のホームページ「地震ハザードステーション」で公開されていて、自宅や職場、学校の住所からも検索することができます。

日本人の地震に対する危機感、地震国であるがゆえに、他国よりも確かに高いという評価があります。しかし、その危機感が備えにつながっているかと言っと、そうでもないようです。市原市役所で言えば、

庁舎の倒壊やガラスの落下が明らかに予想できるような場所を職員の避難経路にしたリ、倒壊の恐れがある第二庁舎に災害対策本部指揮者を配置していたり、各地区では、自主防災組織のあり方など、課題は山積しています。私は声を大にして、この危機感をもっと煽りたいと思っています。なぜなら、空振りには失うものはありません。しかし、心の緩みは命を奪います。



地域みんなまで危機感を持ち、お互いに備えを働きかけましょ。

30年以内に震度6弱以上の揺れが起きる確率が高い場所

	平成29年	28年
千葉県	85%	85%
水戸市	81%	81%
横浜市	81%	81%
高知市	74%	73%
徳島市	72%	71%
静岡市	69%	68%
北海道	65%	64%
日高(浦河町)	65%	64%
根室(根室市)	63%	63%
津市	63%	62%
高松市	62%	61%
奈良市	61%	61%



# 世界のゴミがゼロになる日・・・

先月、被災地の課題について、緊急援助隊の方々と話し合いをする機会がありました。私もいくつかの被災現場とその避難所に行つて、まず直面した事が、瓦礫の処理とゴミの処理・・・そして、し尿(ウンチやおしっこ)の処理問題でした。

避難生活が長くなればなるほど、問題はさらに悪化し、2週間も経てば、臭いだけでも凄い事になります。何とかこの問題を解決する方法はないかと調べていたところ、アントニオ猪木さんと一緒に「世界のゴミをゼロにする活動」をしている九州大学大学院工学研究院教授である渡邊隆行先生(工学博士)に行き着いたのです。

先生は、日本だけでなく世界が抱えている「ゴミ処理問題」を手がけており、火山マグマの温度より高い10,000℃以上にも達するエネルギーを利用して、フロンやハロン、PCBといった有害物

質を出さずに「ゴミ処理を行う」という研究をしているのです。

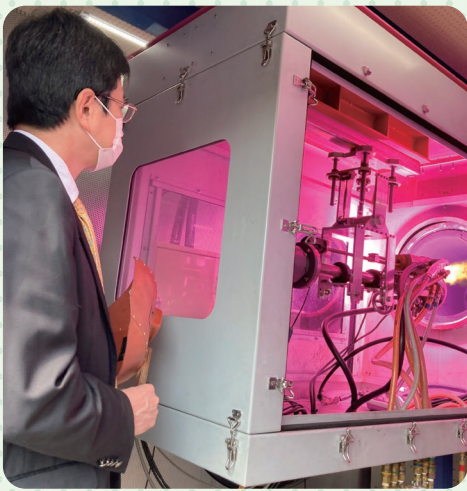
それを可能にするのは、「**水プラズマ**」というもの。驚くべきはそれに必要な材料が「**水**」だけということ。さらには、ゴミ処理の際に出る水素エネルギーを貯留し、新エネルギーとして再活用するという、今、世界から最も注目されている方なのです。

2年前、テレビ朝日の羽鳥さんの番組では、「水プラズマを発生させる装置」で、アルミ缶やパチンコ玉を「瞬のうちに溶かすのではなく、分子レベルまで分解し、気体にしてしまいました。渡邊先生が言うには、地球上で「**このプラズマで無くならないものはない**」と豪語していました。つまり、火山の中に「ゴミを捨てるようなものであり、全て無くなってしまふ」という魔法こそが「水プラズマ」なのです。

全ての廃棄物を無くし、気体にする事により、水素エネルギーを得る事ができるのであれば・・・

「んっ？？ちよつと待てよ・・・被災地のウンチやおしっこ**の処理をプラズマで処理し、且つ、避難所のエネルギー供給源にならないか**・・・」と思いついたのです。翌日、図々しくも、九州大学の渡邊研究室に直電したのです。何かのご縁でしょう

か、偶然、渡邊先生が出られ、被災地で経験してきた私の想いを伝えたところ、



水プラズマ発生を説明する渡邊教授

会つて下さる事になりました。先生も、まさかご自身の研究が「災害との結びつき」は思つてなかつたようで、興味を示してくださり、翌日には、水プラズマ関連会社と九州大学と私の3者にて、開発に向けた環境省科学研究費の申請をする事になりました。この水プラズマを多方面で活かす事ができれば、世界の被災地状況が大きく変わるだけでなく、世界のゴミがなくなる日もそう遠くはなさそうですね。



散乱する簡易トイレ



被災地でのトイレの行列



左から矢口社長 私 渡邊教授



## ますも誠二 プロフィール

氏名 増茂 誠二  
 生年月日 昭和42年12月1日  
 職業 歴 市原市議会議員  
 一般社団法人 全国救急救命士教育施設協議会副代表理事  
 国際医療福祉専門学校前副校長兼学科長  
 千葉市医師会非常勤講師  
 資格・学位 杏林大学保健学部非常勤講師  
 救急救命士 救急救命学修士  
 学 歴 国士舘大学大学院救急救命システム科修士課程卒業  
 千葉大学大学院環境生命医学博士課程単位取得満期退学  
 剣道教士七段 第19回極真空手千葉県マスターズカップ三位  
 その他



ホームページもご覧下さい。  
<http://www.masumo-seiji.com>

ますも誠二

検索



非常勤委員会としてドクターカーに関する要望書提出



レスキューガイド特許取得



児童養護施設への食材供給事業開始



私のLINEのQRコードです。市原の課題、ご意見をお聞かせ下さい。今日動きます!

